



友情を確認、活発な交流を

韓国吉祥面から友好親善訪問団が、合併後初来町

本町と姉妹盟約を締結している韓国吉祥面の友好親善訪問団が1月13日から15日まで、本町を訪れました。

訪問団は、小学生13人、中学生16人、大人19人、通訳2人の計50人。ホームステイや視察、晩餐会などで交流を深めました。

一行は13日の夕方に本町入り。さっそく長島町開発総合センターで歓迎式典が行われました。式典は津軽三味線で幕を開け、川添健町長が「昨夏、訪問した際はお世話になりました。長島町は合併して大きくなりました。新しくなった町を堪能してください」と歓迎。金洪中吉祥面民間交流協議会長が「日本の良いところを熱心に学び、友情を深めたい」とあいさつしました。続いて、姉妹盟約を締結した当時の旧長島町長である平下英治氏が、これまでの友好親善交流の思い出を紹介し、この交流を継続してきた旧長島町長の島崎親雄氏に金会長から感謝状が贈られました。式典終了後、吉祥面の子どもたちは各ホームステイ先へ、大人たちは長島町国際交流事業実行委員会々員らとの歓迎晩餐会に出席しました。

2日目の14日は、子どもたちはそれぞれのホームステイ先で日本の文化を体験。大人たちは、町内の小学校やブリの養殖場、風車の工事現場などを視察して、本町の産業、観光地を満喫しました。

最終日の15日は、役場指江庁舎で送別式が行われ、ホームステイの受け入れ家族や実行委員会の会員らが大量出席しました。式で金会長は「言葉では表現できない日本を見て感じられました。この交流が活発に、長く続くことを祈ります」とこれからの交流に期待を込めて、別れのあいさつをしました。

訪問団がバスに乗り込む前には別れを惜しみ、握手をしたり、抱き合ったりして再会を誓う姿が見られました。

3日間という短い期間ではありましたが、本町と吉祥面の友情をさらに深める充実した交流会となりました。



↑別れを惜しみながらの見送り



↑針尾公園からの絶景を堪能



↑小学校の設備に関心を示す訪問団